

★6月の休館日：5日(月)、12日(月)、13日(火)、19日(月)、26日(月)



プラネタリウム番組のご案内

6月の一般投影 南極の星空

日本から遥か14,000km、地球の南のはてにある南極大陸は、約98%が氷に覆われています。氷の厚さは平均で約2500m、最大で4500mもあり、富士山がすっぽり埋まってしまうほどの厚みがあります。

南極には30か国以上が観測基地を設けており、日本も4つの基地を持っています。毎年、昭和基地には観測船「しらせ」に搭乗した南極地域観測隊が訪れ、南極の環境の調査のほか、隕石の収集やオーロラの観測など、天文学に深い研究もおこなっています。

南極大陸内陸高原は寒冷な気温、乾燥した大気、高い標高により、天体観測にとって地球上で最も適した場所であるとされています。低温のため地球大気や望遠鏡からの熱ノイズが非常に小さく、水蒸気量が極端に少ないことから、地球大気中の水蒸気に吸収されやすい電磁波の観測に適した場所となっています。これらの利点を生かした天体観測を行うため、口径2.5mの赤外線望遠鏡と口径10mのテラヘルツ望遠鏡をドームふじ基地に建設する事を目指しています。

南極では、一日中太陽が昇らない「極夜」と、一日中太陽が沈まない「白夜」の時期があります。南緯69度にある昭和基地では、6月下旬頃を中心とした前後約1か月半、南緯77度にあるドームふじ基地では約4か月間、空が暗い日が続く極夜となります。

星を見る場所が違くと、星の見え方が違ってきます。南極で星を見ると、明石の空では地平線の下にあり、見る事ができない南十字星も見えます。南十字星からは天の南極を知ることができます。北半球では、天の北極にある北極星を中心に反時計回りに星が回るように見えますが(図1)、南極点では、天頂付近は天の南極を中心に時計回りに星が回るように見えます(図2)。

今月は、プラネタリウムで魅力あふれる南極の星空を紹介します。



提供：国立極地研究所
撮影：第62次南極地域観測隊 西村祐香隊員



提供：河合健次

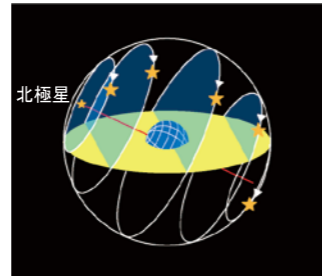


図1 北半球の星の動き

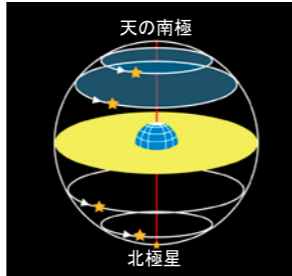


図2 南極点の星の動き

キッズプラネタリウム

★幼児や小学校低学年を対象としたこどもむけプラネタリウムです。

たなばたアワー

七夕の物語や、夏の星座のお話のほか、宇宙旅行にも出かけましょう！

☆6/1(木)~7/7(金)☆
平日 9:50~11:10~
土・日 11:10~14:30~
※平日は団体予約がある場合のみ

星と音楽のプラネタリウム

※事前申込制

★素敵な生の音楽とともに星空をお楽しみいただく特別投影です。

☆6/17(土)☆ 13:10~ <出演> Tiffany (ヴァイオリン)

こども天文教室

★小学4年生以上を対象に、テーマごとの天文の話題を少し詳しく解説するプラネタリウムです。どなたでもご参加いただけます。

☆6/24(土)☆ 9:50~ テーマ：一番星をみつけよう

7月の一般投影

銀河系とブラックホール

2022年5月、銀河系の中心にある巨大ブラックホールが撮影され、大きな話題となりました。ブラックホールとは、非常に重力の強い天体です。光でさえ抜け出すことができないので、宇宙に黒い穴が開いているように見えるだろうと考えられ、ブラックホールと呼ばれるようになりました。

銀河系中心のブラックホールはどんな天体なのでしょう。詳しくお話しします。



©HST Collaboration

特別展のご案内

~6/4(日) ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡がとらえた驚異の宇宙

2021年に打ち上げられたジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡がとらえた宇宙の姿を、美しい天体写真で紹介いたします。

6/9(金)~6/11(日) 時の記念日特別企画 天文時計の世界

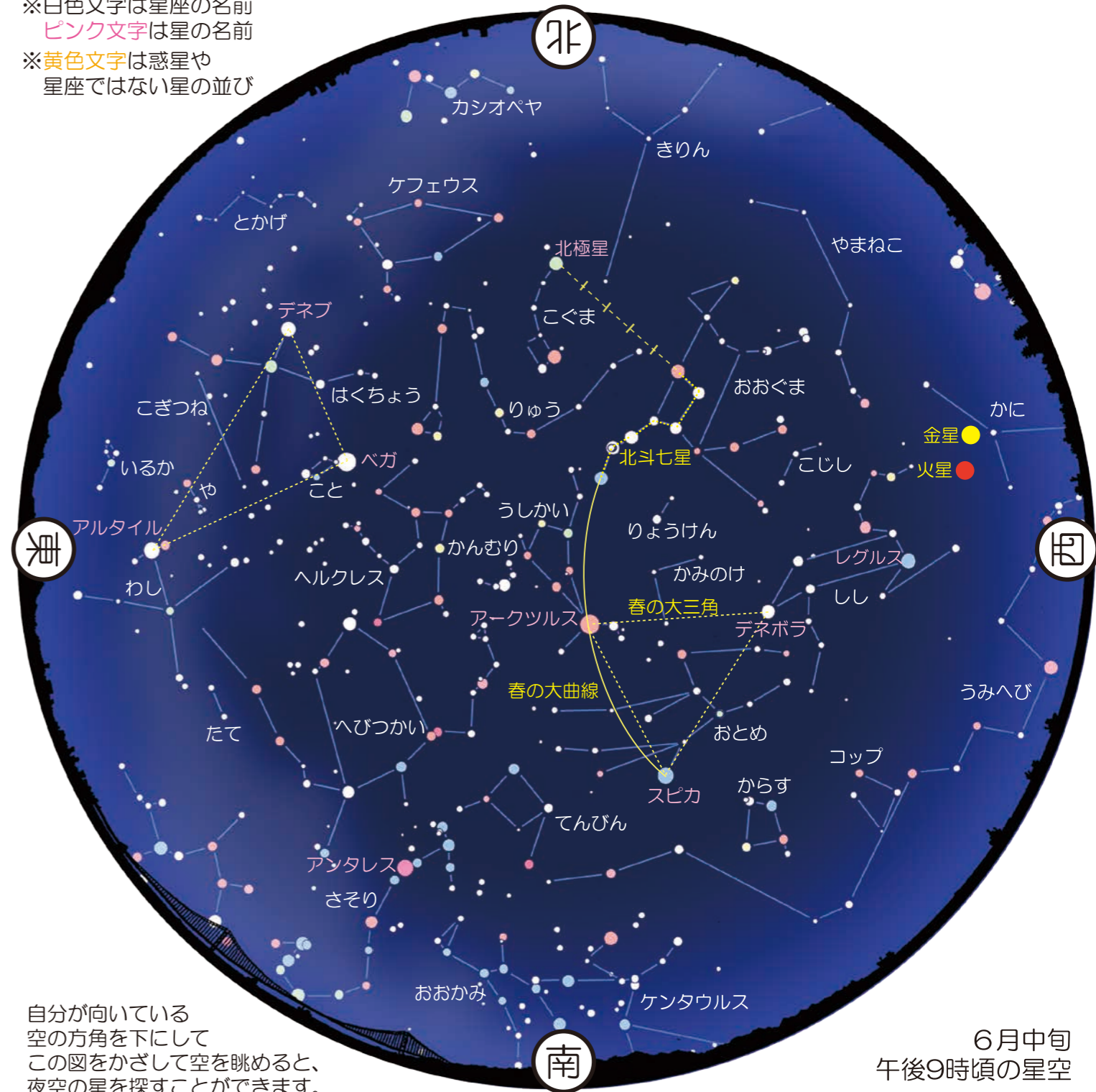
天文腕時計「ロイヤル・アイゼ・アイジナーリミテッドエディション」を特別公開。世界の天文時計写真なども展示します。

6/17(土)~7/17(月・祝) 七たと七たかざり展

七た伝説や七たの星とともに、播磨地方や各地に伝わる七た飾りなどを紹介します。

時と宇宙の博物館
明石市立天文科学館

※白色文字は星座の名前
ピンク文字は星の名前
※黄色文字は惑星や
星座ではない星の並び



自分が向いている空の方角を下にしてこの図をかざして空を眺めると、夜空の星を探ることができます。

6月中旬
午後9時頃の星空

北の空に見える「北斗七星」のひしゃくの柄のカーブを伸ばすと、オレンジ色に輝くうしかい座の1等星アークツルスと、白く輝くおとめ座の1等星スピカが見つかります。アークツルスは、日本では、麦の収穫の頃、日没後に空高く輝くことから「麦星」と呼ばれています。

日没後の西の空に宵の明星・金星がひととき明るく輝いています。6月4日には、太陽から最も離れて見える東方最大離角となります。東方最大離角のころは沈む時刻が遅くなるため、長い時間金星を楽しむことができます。また、6月22日には、月齢4の月と並んで輝く様子が見られます。

6月の月の暦

4日 ● 望(満月)
11日 ● 下弦
18日 ● 朔(新月)
26日 ● 上弦

6月の日の出・入(明石)

| 日の出 | 日の入 |
|----------|-------|
| 1日 4:48 | 19:07 |
| 15日 4:46 | 19:14 |
| 30日 4:50 | 19:17 |

6月の天文現象

4日 金星が東方最大離角
6日 芒種
10日 月と土星が並ぶ(明け方)
14日 月と木星が並ぶ(明け方)
21日 夏至
22日 月と金星・火星が並ぶ

7月の天文現象

6日 月と土星が並ぶ
7日 小暑
7日 金星が最大光度
12日 月と木星が並ぶ(明け方)
20日 月と金星が並ぶ
21日 月と火星が並ぶ
23日 大暑
31日 みずがめ座δ(デルタ)南流星群が極大